

3 暮まじぐら

仕事と家族をおしえてください。
東京入国管理局成田支局で、入国や出国の

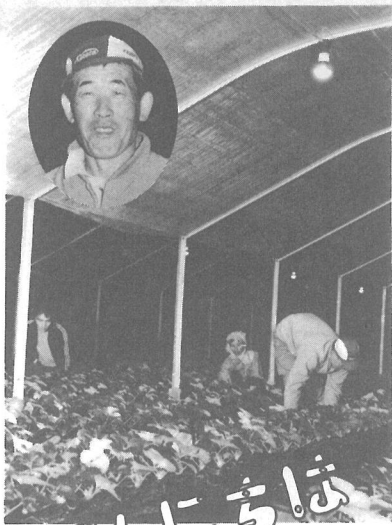


審査を行っています。家族は、両親と高校二年になる弟の四人、家は大変な仕事のようにですが、休みのときは？

スポーツをしたいんですが、仕事の関係で時間がなくて——家で編み物をしたりしています。去年は、カーデガンとセーターを編んだんですよ。これからやつてみたいことは？

23歳ぐらいに結婚…… 鈴木千枝子さん（新島荒場）

に、勉強したいですね。それに、いつもが行くのを見ているだけなので、ぜひ外国——アメリカへ行ってみたくと思っています。とても明るく、笑顔で話す鈴木さん。高校のときは、陸上部のマネージャーを努めたという。最後に、結婚の予定はと聞くと「早くしてきな男性をみつけて、二十三歳ぐらいいまでは」と答えてくれた。来年、成人式を迎える鈴木さんは、ただ今、青春まじぐら。ひと月早い、成人おめでとう！



3 取立 河野恒久さん

「イチゴのほかに、田畑も耕作してはるんですが、すこしずつ長男にまかせて、後を継がせようと思つてます」と話す河野さんは、毎年、始めて出荷するときの赤いイチゴを見るのを楽しみにしているそうです。

あたりが暗くなりかけた取立の部落。田畑に建てられたハウスに電気がつけられ、不夜城が出現する。

今回は、ハウスイチゴ（電照）の栽培をしている、取立の河野さん。今回は、ハウスイチゴ（電照）の栽培をしている、取立の河野さん。今回は、ハウスイチゴ（電照）の栽培をしている、取立の河野さん。

楽しみなイチゴとの対面

電気をつけ、日照時間を長くして栽培するもので、十二月中旬から出荷が始まり、来年春ごろまで続くそうです。河野さん宅では、現在二十七、八歳のイチゴを、家族三人（妻昌子さん、長男敬一さん）で栽培しています。



▲中台の馬頭観音（写真②）

いろいろな人びとと話し合っているうちに、増福寺の庭で遊んでいた子供たちが大きくなったころ「馬頭観音は火事の神様」という信仰が定着するかもしれないなどと考え、信仰思想の変遷に新しい疑問をもつのでした。

横芝町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿



▶増福寺の馬頭観音（写真①）

結び付けての願望であらうと思つたのですが、おじいちゃんが「火事の神様」と言っていたというのは、実は供養塔のことであつたとわかりました。供養塔といえば、中台の四つ角から桜前方面に向つて行くと、すぐに両側が杉林となります。その左側の道端に、馬頭観音と太字で刻まれた板状の石が建っています。下の方に建立者の名称が、個人名で刻まれているところを見ますと、きつと愛馬を弔うための供養に建てたものだと思うのです。写真①は、増福寺の馬頭観音で、年代が新しいためか、図柄の鮮明さが印象的です。隣に見える小屋に供養塔が納まっています。写真②は、中台の道端に建っている。愛馬供養と思われる馬頭観音です。馬頭観音とは「六観音の一つで、頭上に馬頭をいただける観音。尊

輪王の宝馬が須弥山の四方を駆馳すがごとく大威勢をもって……」などと、物の本にあります。本来の姿は、頭上に馬頭をいたたくというのに、なぜか横芝町の馬頭観音は騎乗姿ばかりです。石工か絵師が、須弥山の宝馬を想像して、騎乗型を作り出したのかもしれない。馬頭観音の建っている周辺の人びとのだれにお聞きしても、その答えは返ってきません。そればかりか、この騎乗姿が普通の姿だと思つている人もあるのです。